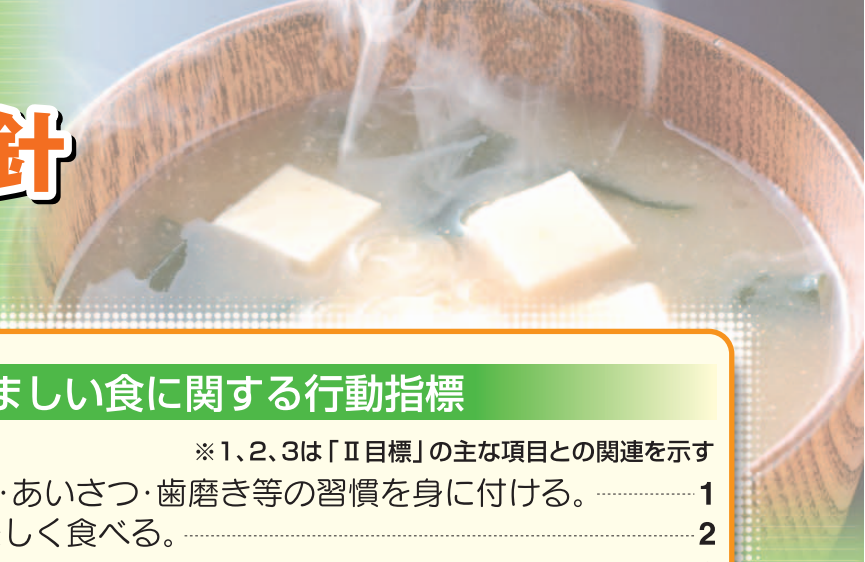


子食育指針



Ⅲ 発育・発達段階に応じた望ましい食に関する行動指標

※1、2、3は「Ⅱ目標」の主な項目との関連を示す

【幼時期】

- 1日3回の食事のリズム、手洗い・あいさつ・歯磨き等の習慣を身に付ける。……………1
- 家族や仲間と一緒に安心して楽しく食べる。……………2
- 身近な食材や味に親しむ。……………3

【児童期】

- 1日3回の食事のリズムがもて、間食の意義がわかる。……………1
- 学校給食との出会いの中から食べる食材を増やし適量を知る。……………1
- 歯と口の健康と食のかかわりやかむことの大切さがわかる。……………1
- 家族や友達との会話を楽しみ、食事マナーを身に付ける。……………1
- 食事作りや準備にかかわる。……………1
- 食事のバランスがわかる。……………1
- 食事のあいさつの意味を知り、感謝して食べる。……………2
- 自然や地域と食べ物とのかかわりに関心を持つ。……………3

前期

- 自分の食生活を見直し改善する。……………1
- 自分の健康に必要な食事の量や組合せを理解し、摂取する。……………1
- 一緒に食べる人を気遣い、楽しく食べる。……………1
- 一人で食事作りや準備ができる。……………1
- 食にかかわる人々に感謝し、物を大切にする。……………2
- 地域の食材のよさを知り、郷土食や行事食を大切にする。……………3

【青年期】

後期

- 家族の食生活を健康で安全に営む。……………1
- 食生活や健康に関連した情報を選択し、活用できる。……………1
- いのちの大切さを認識し、食に関する活動に主体的にかかわる。……………2
- 地域の食文化に関心を持ち、先人達の知恵を学び、継承しようとする。……………3

Ⅳ 学校における食育推進上のポイント

- ① 幼児・児童生徒の食生活の実態を明らかにし、自校の課題を明確にして取り組みます。
- ② 食育推進コーディネーターを位置付けるとともに、学校保健委員会等を活用し学校全体で組織的に推進します。
- ③ 保育や学級活動・ホームルーム活動等に食育を学ぶ場を位置付け、各教育活動との関連を図り推進します。
- ④ 学校給食を「生きた教材」として活用します。
- ⑤ 家庭との連携・協力のもと、あらゆる機会や場を活用し、推進します。
- ⑥ 地域の様々な人々や関係機関とのかかわりをとおして推進します。
- ⑦ 食に対する興味・関心を高め、食に親しむことができるような、体験活動を大切にします。